

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜木中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	情報端末の活用により、基礎・基本の定着や個に応じた必要な支援を講じていく。生徒同士が自らの考えを基に話し合う学びを全学年で重点的に取り組み、意味の理解を深める学習活動を充実させていきたい。
思考・判断・表現	根拠となる部分を引用して自分の考えを述べたり、表やグラフ、資料の特徴や傾向を捉えて、言葉や数を用いて表現する活動に重点的に取り組んでいく。次年度は、主体的で対話的な深い学びのさらなる実現に向けて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上を維持する。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において1pt向上させる。	⇒ 基礎的・基本的な知識・技能のさらなる定着を図るため、反復練習や小テストを定期的実施していく。また、基礎・基本の定着には個人差が大きいため、個に応じた必要な支援を講じていく。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査において、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目で肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 根拠となる部分を引用して自分の考えを述べたり、表やグラフ、資料の特徴や傾向を捉えて、言葉や数を用いて表現する活動に重点的に取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	⇒ 「桜木中学校学びの道しるべ」を活用し、学習の見通しをもたせる。学習課題を提示して課題解決型の授業を展開し、授業中に自己の振り返りの時間を設定する。

⑤ 反映 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の中1・中2の「知識・技能」において、国語・数学ともに、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、1pt以上向上した。反復練習や小テスト等、基礎・基本の定着に向けた、個に応じた支援が功を奏した。	A
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査において、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目で肯定的な回答の割合は95%であった。各教科において、様々な形態で表現する活動を行ったことが功を奏した。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は93%であった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は84%であった。各教科において、学習の見通しをもたせ、課題解決型の授業を行い、振り返りの時間の確保する等の効果があったと思われる。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+2pt、数学-4ptであった。数学の「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる問題」、国語の「事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる問題」の正答率が全国に比べ、やや低かった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+9pt、数学+2ptであった。数学の「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題」の正答率が全国に比べ、やや低かった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は90%で目標値に達した。今後も、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	国語、社会、数学、理科において平均正答率が市平均を大きく上回った。個に応じた支援が基礎的・基本的な知識・技能の定着に繋がったと思われる。
中2	国語の「我が国の言語文化に関する事項」、数学の「数と式」「関数」「図形」の分野の平均正答率が市平均を大きく上回った。理科の「地球」を柱とする領域には課題が見られた。興味をさらに持たせられるように導入を工夫し、自主的に学習する環境を整備したい。
中3	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は93%であった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は88%であった。どちらも2年生のときよりも高い結果であり、主体的に学習に取り組む様子がより見られるようになった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし